

「過剰米を買い入れ市場隔離し、食料支援拡充を」

「国民の食糧と健康を守る運動田川地区連絡会」（田川食健連、大高全洋会長）と、山形県農協労組は11月5日、



鶴岡市農協から「賛同書」を受け取る田川食健連の大高会長



庄内みどり農協から「賛同書」を受け取る庄内農民連の梶事務局長

庄内の5農協を訪問しました。

全国食健連が毎年秋に行っている「秋のグリーンウエーブ行動」の一環で、「政府への要請」を行いました。

鶴岡市農協では伊藤淳専務と白幡静夫専事が対応。伊藤専務は「食と農を守るのは国の基本。今の状況は決して見逃すことはできない」と述べました。

庄内たがわ農協では太田政士組合長が対応。「次期作が心配。組合員からの不満の声は大きい。在庫が増え普段使わない倉庫を修理して使っている。選挙の年なので益前には何か（支援策が）あると思

ったが甘かった」と述べました。酒田市袖浦農協では佐藤久則専事が対応。

全国食健連「政府への要請」

1、新型コロナウイルスの影響で生じた米過剰在庫について、備蓄米買入枠の拡大等で市場隔離を行うこと。また、コロナ禍における生活困窮者や学生、子ども食堂、フードバンクへの国産米提供等による支援の拡充を図ること。

2、食の安全・安心、安定供給のため、国連が推進する「家族農業の10年」を成功させる農政を確立し、食料自給率の向上をめざすこと。

3、学校給食に地元産の安全な米を提供するとともに、給食の無償化を実施すること。

4、農業者戸別所得補償制度を復活すること。

5、輸入農畜産物について、残留農薬検査を徹底し、農薬の残留基準を超過する農畜産物が市場や加工食品等に流通しないよう対策を講じること。

泣くことも出来ない悲しい思い、これを率直に受け止めて、いつまでも感傷に浸ることは出来ない。このつらさをどこかで吐き出さなければ、次に進むことが出来ない。

ようやく暗いトンネルから抜け出し、ゆとりも出てきたからであらう。

周平はその思いを「オール読物」新人賞に応募した短編「涙い海」が、直木賞に推された。すでに43歳であったが、時期こそ遅かったが、走り始めると人々の注目を集めた。

引き続き、「囃」（オール読物・昭和46年11月号）、「黒い線」（別冊文芸春秋・昭和47年7月号）、「暗殺の年輪」（オール読物・昭和48年3月号）で、第69回直木賞を射止めた。

執筆の領域を時代小説に定めて、休みなしに発表した作品の数は、短編144、長編38、それに史実伝2、全集は各編およそ600頁もの大冊23巻（うち1巻は随筆集成）を、20年間で書き下ろした。

私も周平の小説は好きで読んだが、全作品のごく一部分であらう。周平の作品は、人生の喜怒哀楽を写し出していると思う。

「涙い海」を出した頃の作品は一様に暗く、物語は闇から闇へ、時には凄愴の気さえる。私が最初に読んだ小

説は「春秋山伏記」であった。

庄内平野に霞が降る頃、山伏装束をし、高下駄を履いた山伏が、大きな袋を担いだお供を連れて、各村々を「ブオホー」と法螺貝を鳴らして、「松の勧進」を唱えてお札をくれた。

法螺貝の音がだんだん近くなると、神様に奉る賽銭、またはお米をお盆に載せて準備する。

「苦勞さんですのー」と言つて、お札を頂戴する。

この風景が、山伏が霞（檀家区域）を回る姿であった。これを「霞を食う」という。

子どもの眼から見た山伏（松の勧進）は、どこことなく恐れ多く感じた。

「春秋山伏記」は、羽黒山から正式の書付をもらった髭面の大驚坊が、村に住み着いた偽の山伏を追い出し、その村に住み込んで、人々の生活を目の当たりにする。

狐つきの話も、村に来る箕作りや、水飴売りなども出てくる。

私が子どもの頃、箕作りは毎年来ていた。春の雪解けになると、2〜3人で各家を回り、集めた箕を1カ所に、日照りの場所に筵を敷いて、作るというより修繕であった。

朝日村の山奥、大鳥からの人たちで、寡黙な人たちであった。

藤沢周平を読む⑭

鈴木重雄（八色木）

晩秋看白鳥

千紅零落菊花開
白鳥群翔夢已廻
日夕飛鴻相与還
禽啼那從北辺来

晩秋に白鳥を見る

城貞（藤の花）

千紅 零落して菊花 開く
白鳥の群翔 夢 已に廻る
日夕 飛鴻 相 与に還る
禽 啼きて 那ぞ北辺より来る

多くの花はすっかり枯れて今は菊の花が咲いている。

白鳥が群がって大空を飛んでやって来る夢をすで見えた。

夕方になり白鳥が連れ立って飛んで帰る。（秋は日の暮れるのが早くて、夕方になると暗くて餌を探ることが出来なくなり連れ立って餌場を離れる。）白鳥はどうして北の地方からわざわざこの地に飛んでくるのだろうか。



晩秋 秋の終わりが。千紅 秋あまたの花。零落 草木が枯れ凋む（しぼむ）。群翔 群がって大空を飛ぶ。已 とうつくに。すでに。廻 めぐらす。日夕 夕方。飛鴻 白鳥。相 ともども。与 一緒に。還 帰る。禽 鳥獣の総称。從 ・・・から。那 ・・・どうして。北辺 北の地方。

ひと

茨木のり子⑦

茨木と庄内語

青山 崇

茨木は庄内の言葉で、奥の細道ことば、東北弁などと言って、美しくきれいと言つた。

私も庄内に来た頃は綺麗だと思つた。

しかし、その綺麗な庄内語は地主・御家緑派（旧家臣）の間の言葉で、「在」の農村部ではかなり違つていた。

私は新採が、庄内農業高校だったので、生徒はほとんど「在」であつた。

山形弁の私さえ驚いた。例えば、母は一般的に「ガガチャ」であるが、生徒は「ガガ」である。上層家では「かはん」である。

君は「ワネ」だが、君たちになると「ワネピラ」となる。

教師も女生徒を叱るときは「このメラスー」で、男生徒は「ワカゼやる」であつた。

上層家も戦後の改革で変わり、かなりの家が経済的基盤がなくなり、逆に「在」は農地改革で多くが自作農家となり、上層家との格差がほぼなくなった。

同時に在や上層家の言葉も、ともに影が薄くなった。

庄内語のイントネーションを綺麗に話す人もいなくなり、共通語

になつた。

卑近な例では、父「だはん」、祖母「ぼぼはん」で、「はん」は尊敬語で、皆から慕われ敬われた人である。

私は、50余年の庄内暮らしで、「はん」づけで呼んだ方は、小竹輝弥、佐藤治助、小池幸吉の3名だけである。

茨木が礼賛した庄内語は、上層家のものでつたので、残念だがなくなつた。

皮肉な話だが、残つていたのは2002年放映の『たそがれ清兵衛』の宮沢りえのセリ



愚策の10万円

選挙の公約が理屈に合わなかつたんだ。だから10万円くれると言われても、世論調査では適切と思う人が、19・3%しかいなかったんだ。逆に給付すべきでないと言う人が19・8%と多かつたとの報道だぜ。従つて、10万円給付は公約とは見えていなかったカモ。

▲公明党は、いつかもこの手で次の選挙に水を引いた事がアツタツケが、今回は墓穴を掘つたかな。それが分かつず自民党は、早々と実施することにしたが、何故18歳以下が対象なのか。これも天下の愚策という事に。自公が一緒になつて国民から嫌われる事をやってきたが、原資は税金だヨ。▲ばらまきと言われなように、所得制限をするんだと。それを年収960万円にしたん

フである。

清兵衛は宮沢を「朋江はん」と言い、朋江は清兵衛を「あんたはん」とし、他のイントネーションもたまらなく美しく、私はそれが楽しみで2回も観るこ



だが、世論は額が大きすぎるのと、世帯主の所得に批判が。しかし、所得制限を収入金額でするとはどういう事？ 給与や年金ならば収入金額で所得は公平になるが、事業の場合は収入で決めるのは不公平だろうが。農業なんかは、収入の大部分が経費なんだからサ。

▲それにしても、目的・狙いは何なんダヤ。

景気対策？それとも子育て支援？半が現金で残りがクーポン券と云うのも、解らないことをするじゃないの。ま・子どものいない我が家には関係ないお金だが。

▲今、コロナの発生が減つても、非正規やシングル親と、バイトが無い学生など、食べるのに苦労していると報道だし。学業が続けられない学生も。また、休むに休めなかつた医療従事者や医療機関には、何もなしか、この政権は。（石川）



共産党支援の真室川町長選、新田隆治町長(65・無所属)が16日、無投票再選

新田町長1期目は、18

歳までの医療費無料化、小中学校の副教材無償化、出産費用の無償化、水道料・介護保険料の引き下げなどを実施しました。2期目にあたっては、「憲法を遵守しその精神を生かす」

「福祉増進に力を入れる」

「強権的な国政運営を容認しない」

「町職員有志と能力を活かせる役場づくり」の政治姿勢を示し、共産党が支援しました。